

聖泉大学 地域連携交流センター

平成 28 年度 活動報告書 vol.3

平成 29 年度 教員紹介 (研究者一覧)

つながり



ごあいさつ



聖泉大学 理事長 学長
筒井 裕子

近年、地域との連携によって、大学と地域とが互いの力を発揮し、より充実した地域社会の構築を図ることは本学の大きな課題でもあり、また、国の地方創生の方向性でもあります。

本学の地域連携交流センターは、大学の持つ知の力と地域の伝統と文化の資源を活用し、相互に地域の発展を願い活動を始めています。

その活動の一つは市町との協定により、交流を密にし、地域活動を通して教職員や学生が地域の伝統や文化を深く理解することができればと考えます。

その活動内容は、「健康や心の問題」「地域の伝統と文化」などをキーワードにした人間学部・看護学部の教員の研究や公開講座、教職員・学生による地域への行事の参加などを通じて交流を深めています。

例えば、学生や教職員が彦根市や豊郷町の盆踊りへ参加するなど、地元の方々との交流の場となっています。

また、地域の方々と共に学ぶ公開講座は、文化・伝統や経済活動など地域の良さや強みを発見し、地域創生へ発展できればありがたいと願っております。

地域で学んだ学生が、地元へ就職し、若い力を発揮するには、学生時代から目的を持って、主体的な活動としてのアクティブラーニングを有効活用させて頂くことが大切と考えています。そのことは地域貢献にもつながると考えます。

本学は地域連携交流センターを通して、彦根市、愛荘町、米原市とも協定を締結していますので、健康問題、特に心理面・身体面、さらにスポーツなどの研究や成果を実践できればとも考えております。

この地域連携交流センターは地域の文化や伝統を理解し、「つながり」を持つて学生の就職活動へと活動を発展させて頂きたいと願っております。



聖泉大学 地域連携交流センター長
間 文彦

聖泉大学地域交流センターは、本学の建学の精神と教育理念である「人間に対する理解を深め、広く社会と地域に貢献できる人材の育成」を実現するため、そして地域連携および産学官連携の窓口として、地域社会の発展に寄与することを目的に、平成 28 年度 4 年目を迎えました。

平成 28 年度、地域連携交流センターの課題は、彦根市と聖泉大学との連携および協力に関する協定書の締結でありました。彦根市長、彦根市企画課のご尽力をいただき平成 29 年 3 月 29 日に、聖泉大学・彦根市包括連携協定締結いたしました。連携協定をもとに地域住民のみな様の御期待に応えるべく大学が一丸となり取り組んでいきたいと考えております。

今後も聖泉大学と地域の交流を促進し、地域社会の発展に努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

目次

ごあいさつ	2
目次	3
地域連携交流センターの概要	4
教員の研究と地域交流	6
大学教育と地域交流	8
地域課題解決の取組（聖泉版・近江楽座）	10
学生の地域交流とボランティア活動	12
平成 28 年度 健康づくりリーダー養成講座	14
平成 28 年度 公開講座	16
卒業生の地域貢献	19
大学附属施設の機能・概要	20
学部附属施設の機能・概要	21
聖泉大学教員紹介（研究者一覧）	22
地域連携交流センター規程	30
平成 29 年度事業計画	31



聖泉大学地域連携交流センターの概要

センターの目的

聖泉大学の地域連携及び産学官連携の総合窓口として、地域住民、NPO、行政、医療機関、企業等との連携を深め、本学が有する人的資源及び教育研究成果を広く地域に還元するとともに、地域社会の発展を目指しております。

連携する地域・団体

連携協力協定（締結先）

彦根市、米原市、愛荘町、彦根商工会議所、稲枝商工会
 大学を活かした地域活性化のための協定（6者協定）
 聖泉大学・滋賀大学・滋賀県立大学・平和堂・彦根商工会議所・彦根市

連携地域・団体

彦根市社会福祉協議会、稲枝地区社会福祉協議会福祉活動推進委員会、近江地域学会、小江戸ひこね町屋活用コンソーシアム、豊郷町など

センターの業務・機能

地域連携・産学官連携・調査研究

地域住民、NPO団体、行政機関、医療機関、産業界、大学・地域コンソーシアム等に係る人的交流、受託研究、共同研究を進めています。また、地域課題の把握、課題解決のために定期的な協議を行っています。

公開講座・地域連携講座等の実施や生涯学習の普及・拡大

地域の課題に対応した「公開講座」や高齢者の学び直し講座として「健康づくりリーダー養成講座」を実施しています。

学生の地域連携活動の支援

学生の地域貢献活動の支援や「学生地域連携交流委員」の活動協力等、学生が積極的に地域連携・貢献活動が出来るようサポートをしています。

平成 28 年度の年間活動内容

	公開講座	地域連携	会議・調査	その他
4月				定例センター委員会（毎月開催）
5月			近江地域学会	
6月	第1回公開講座 「楽しく歳を重ねるコツ」			
7月			彦根市社会福祉協議会（協議）	
8月	第2回公開講座 「身近な人が認知症になったら」	とっとまつり参加（豊郷町） 運動あそび実施 （のびっこクラブ）	●環びわ湖大学・地域コンソーシアム 地域課題解決のための自治体との連携調査 ●稲枝地区社協福祉推進会議 ●近江地域学会	
9月	健康づくりリーダー養成講座 初級①「体力測定と健康相談」			
10月	健康づくりリーダー養成講座・初級② 「ノルディックウォーキング体験」	米原市民生児童委員研修会 かまどまつり参加（愛荘町）	●彦根市との協議 ●稲枝地区社協福祉推進会議	平成 27 年度活動報告書発行
11月	第3回公開講座 「介護者の生きるイメージ」 健康づくりリーダー養成講座 初級③「運動と心の健康」		●彦根市との協議 ●愛荘町との協議 ●稲枝地区社協福祉推進会議	
12月			環びわ湖大学・地域コンソーシアム・地域交流フェア	
1月			彦根市との協議	
2月			●彦根市との協議 ●稲枝地区社協福祉推進会議	
3月		彦根市と包括連携協定	●彦根市との協議 ●愛荘町との協議 ●稲枝地区社協福祉推進会議 ●県市町大学連携代表者会議	

■ 平成 28 年度は新たに彦根市との協定を結びました。

彦根市と本学は、これまでも様々な分野において協力関係を築いてきましたが、更なる連携の充実・強化を図るために、平成 29 年 3 月 29 日、包括連携協定を締結しました。今後、この包括連携協定に基づき、それぞれが有する資源を活用し、地域の課題解決や活性化に向けて協働した取組み・継続的な連携を進めていきます。

連携・協力事項

- (1) 安心・安全なまちづくりに関する事業
- (2) 地域の活性化に関する事業
- (3) 地域の医療・福祉・健康に関する事業
- (4) 学校教育および生涯学習に関する事業
- (5) 人材育成に関する事業
- (6) その他、双方が協議し、必要と認める事業

具体的な連携活動としては、消防の機能別分団を作り、学生防災サポーターと共に避難場所の運営や防災イベントを開催します。地域活性化事業では、教員と学生が年間を通じて地域貢献活動に取り組みます。

また、健康づくりや放課後児童クラブの活動支援は継続的に実施し、公開講座や生涯学習事業については彦根市と協議を行い地域の課題に対応した内容に発展させていきます。

人材育成については、保健師・助産師・看護師の輩出や学生のインターンシップの他、課題解決型授業の実施を進めていきます。



■ 米原市民生委員の研修会

米原市民生児童委員研修会「高齢者福祉部会」の研修会を本学で開催されました。

日 時 平成 28 年月 10 月 25 日 (火) 10:00 ~ 11:30

講 師 安田千寿 (聖泉大学看護学部准教授)

「認知症の方の心の理解」として、認知症の理解、認知症の種類、症状、事例を通して、地域の認知症の方との接し方、サポート方法等についての説明があり、参加者の皆様は熱心に聞いておられました。

今後も地域の課題に対して様々な研修、支援等を行なっていきたいと思います。

(地域連携交流センター)



教員の研究と地域交流

地域企業との協同開発

ーゼミ学生のAi-SPEC参画

人間学部准教授 脇本 忍



私の専門領域である社会心理学は、世の中で発生する社会現象や流行現象、さらに人間関係のメカニズムなど、人が社会から受ける影響と社会が人に与える影響の相互作用について研究する学問です。そのことからテーマは多岐にわたり、時代の趨勢や風潮に関心を惹くことが求められます。私の研究室に所属する学生も、社会心理学に関心を示す学生たちばかりですから、社会現象にアンテナを張ってテーマを探索し、3回生から卒業研究に連関する研究活動を開始します。その方法として、学生たちには、まず研究室を出てフィールドワークを実施することを推奨しています。

以上の目的から、平成28年5月から11月に大阪で開催された決勝大会プレゼンテーションまでの期間に参画したのが、経済産業省近畿経済産業局主催のAi-SPEC (Academic Innovative Solution Project for Enterprise Creations アイスベックと表記) で、8人で構成された私の3回生ゼミチームがチャレンジしました。Ai-SPECの内容は、地域に根ざした中小企業さんと共に、マッチングされた各大学チームがペアになって、企業で抱える諸問題について取り組む、実践型課題解決プロジェクト型のインターシップです。コンテスト形式で、昨年度は10大学23チーム (聖泉大学・近畿大学・追手門大学・同志社大学・京都産業大学・関西大学・大阪市立大学・桃山学院大学・武庫川女子大学・甲南女子大学) が競いました。

プロジェクトにエントリーする際に、各チームは得意分野 (マーケティングリサーチ・BtoBマーケティング・新製品開発・海外戦略・グローバルマーケティング・製品サービスアイデアコンセプト開発・市場調査・インターネットマーケティング・販売促進計画・街づくり・流通戦略・チャンネルマネジメント・消費者行動など) を申告し、企業側からニーズと興味をもたれたチームが指名され、いよいよ協同作業が始まります。私のゼミチームは、新製品開発と販売促進計画をアピールし、神社仏閣などの伝統建築物の施工をされている京都市の山田木工所様の業務に関わることになりました。企業からのご要望は、直近に導入された3Dターニングマシンという、データ入力後にコンピュータが自動で木工品を製造する機械を使用した新製品開発と販売促進計画の新事業提案でした。

ゼミチームは、「木」についての消費者心理を分析する目的で市場調査を実施し、その結果を参考にした新製品開発と販売促進計画を開始しました。新製品開発では、学生らしい発想の「天使の羽根 木工USBケース」を考案でき商品化されました。しかし苦戦したのが販売促進計画で、議論を重ねた結果、販売対象をマタニティクリニックに集中し、母体の赤ちゃんの映像と心音を新製品に入力してプレゼントすることに決定し実施されました。

Ai-SPECへの参画は、社会心理学研究の立場から学生にとって3つのことに意義があったと考えられます。第1に、大学内での文献やweb資料による研究では得られないフィールドワークならではの経験。第2に、学会規模の発表会場でのプレゼンテーション経験。第3に、実証研究における日頃の心理統計解析法に加えたフィールドワーク法の経験。以上が地域で活躍される中小企業である山田木工所様と6ヶ月間関わらせていただいたことで、学生の成長に寄与できたと考えられます。

大学による地域交流は、このようなプロジェクトへの参画やボランティア活動に加え、さらに今後は、オリジナリティと魅力のある企画や活動を実施する必要性があり、現在考案中です。その結果が、社会心理学の知見として貢献できることをめざしています。



天使の羽根

健康寿命アップにむけて心と体のリラクゼーション

看護学部教授 小山敦代



<はじめに>

聖泉大学は、人間学部・看護学部・大学院・別科助産専攻を有する小さな大学ですが、文化と自然豊かな滋賀の地で、人間理解を主眼とした教育を行い、地域・社会に貢献できる人材育成をと教職員が一丸となって取り組んでいます。

私は、平成27年4月から看護学部・大学院教授として勤めさせていただいていますが、長い間の看護・教育人生最後の地・大学で、何か地域交流に参画できることはないかと考えていました。

<平成28年度聖泉大学健康つくりリーダー養成講座に参加して>

本学地域連携交流センターは、事業の一環として、地域住民が主体的に健康づくりを行えることを目指した「健康つくりリーダー養成講座・初級編」を開設しました。私は、そのプログラム全てに参加させていただき、皆さんのイキイキされた取り組み姿勢にすっかり啓発されてしまいました。是非、次年度の中級編には、講師としても地域の皆様と一緒に交流・貢献できればと思った次第です。

<近年、取り組んでいる研究>

長い間、看護・教育に携わりながら、看護教育史、看護教育方法、看護技術等に関する研究を行ってききましたが、近年は、統合医療や補完代替医療/療法、リラクゼーション法に関する研究に取り組んでいます。それは、「看護とは、その人の持っている力を引き出し、調え、癒し、活かすこと」と考えるならば、「自然治癒力」「免疫力」を高めるための「セルフケア」や「癒しの技」の必要性を痛感するからです。

以下は、研究分担者として取り組んでいる最近の研究テーマ・内容です。

1. 「リラクゼーション法指導者養成教育プログラムの構築と評価」科学研究費（基盤研究A）2012-2014(3年間)

リラクゼーション法の強みは、身体そのもの引き起こされる心地よいリラックス感を通して、身心の緊張を解いていくという点にあり、がん患者の症状緩和、痛みのコントロール、高齢者の不眠の改善等への適用とその効果等です。そのリラクゼーション法について、①教育プログラムの構築と教材開発、②e-learning教育環境の整備と講座の運営、③講座の開設と評価について、プログラムを用いたe-learning学習、テレビ会議（群馬・京都・長野・新潟）での討議・連携・評価等を行い成果をあげてきました。リラクゼーション看護講座は、4地区の

大学が拠点となり継続実施中です。

2. 「看護における補完代替医療/療法（Complementary and Alternative Medicine/Therapy）の概念化に関する研究」科学研究費（基盤研究C）2014-2017(4年間)

看護職者を対象に補完代替医療/療法に関して、認知度と実施状況及び考えを質問紙を用いて調査し、概念化に関する研究に取り組んでいます。

3. 「虚血性心疾患予防のための生活習慣指導への漸進的筋弛緩法の導入」科学研究費（基盤研究C）2016-2018(3年間) (分担研究)

虚血性心疾患の発症予防として、冠動脈危険因子を持つ成人に対し、リラクゼーション法のなかの漸進的筋弛緩法を導入することにより、ストレス認知と行動パターンの行動変容が起こる可能性について検討することを目的として、現在研究実施中です。

<研究に関する内容と地域交流>

日本人の平均寿命は、世界トップレベルですが、健康寿命（自立した生活ができる期間）は、滋賀県女性が最下位ということを知り、少なからずショックを覚えました。生活の中でうまくストレスに対処するために、心と身体を調えるリラクゼーション法（主に呼吸法・瞑想法・漸進的筋弛緩法等）について学び、セルフケアに取り入れていただきたいと思います。「健康つくりリーダー養成講座：中級編」は、地域の健康づくり・健康寿命アップに活かすことができる魅力的なプログラムの講座です。本講座を通して地域交流に参画できることを大変嬉しく思います。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



大学教育と地域交流

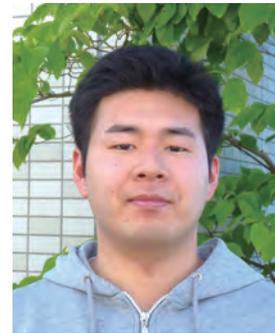
地域のボランティアに参加して ～回数を重ねることの意味～

人間学部3回生 祐川佑太郎

2016年秋から、能登川地区「げんきっ子」という団体にボランティアとして参加しています。きっかけは、聖泉大学人間学部の授業「臨床・発達心理実習Ⅱ」という授業です。この授業は、自分でボランティア先を探してこなければならないことになっていて、しかもイベントへの単発参加ではなく、その団体の日常的な活動に継続して参加することが求められます。けっこうしんどい授業だと思います。そのためか、受講者は僕を含めて4人しかいませんでした。

正直言って、僕はこれまでボランティアに参加したことがありません。興味はありましたが、実際に参加するところまで踏み切ることができませんでした。そこでこの授業を履修し、自分の背中を押してみることにしました。この団体は、障がいのある子どもたちの余暇活動を支援しています。おそらく、保護者が中心となって立ち上げた団体だと思います。利用者の中には身体障がいの子どものみならず、知的障がいと思われる子どももいます。

ここにボランティアとして半年ほど参加し、学んだことはいろいろとあります。最初に学んだことは、僕は子どもたちや大人たちをじっくり見ているつもりでいましたが、じつは僕も見られているということです。3回目に参加した時のことです。それまでは全体のお手伝いをするという感じで、とくにどの子と関わったということもなかったのですが、このときは、会のスタート時に、ある男の子とペアを組んでフラワーアレンジメントをしてほしいと指導員さんから言われました。なぜだろう？ その男の子は、言葉は悪いですが少し手のかかる子なのかな。そんなふうに使っていたのですが、違いました。じつはその子が僕を指名して、「あのお兄ちゃんといっしょにやりたい」と言ってくれたということだったのです。それでその日僕はその男の子と、ずっと一緒に活動しました。何をしたらよいのか不安もあり、もちろん嬉しさもあったのですが、僕に湧いた感情の中で一番大きかったのは「驚き」でした。これまでのこの子との関わりはほとんどなかったけれど、この子は僕を見てくれていたんだ。そのどこにハッとしたり、今もよくわかりません。この授業を担当している先生からは、「その気づきをきっかけに祐川くんは



観察者ではなく参加者となったからじゃないか」とおっしゃっていました。そうなのかもしれませんが、まだピンとは来ていません。

4回目の参加時には、前回一緒だった男の子は別のボランティアを指名したため、僕は違う子どもと一緒に活動することになりました。選ばれなかったことは結構寂しく、また、前みたいに選んでもらえるのではないかと考えていた自分に対して恥ずかしさもありました。なぜ自分ではなく別のボランティアが選ばれたのだろうか、いろいろ考えました。こっそり観察もしました。が、結局はよくわかりませんでした。しかし、短い時間で子供たちのことや親御さんのことを分かってしようとするのは無理があるということだけは理解できました。その人を分かってしようとするには、たぶんとても長い時間がある。短時間でひとのことなんて分かるわけではない。そういうことを僕は学んだような気がします。

確かに、参加回数が増えるほど、僕のことを覚えてくれていた子どもも増えていきました。子どものほうからかなり近くに寄ってきて笑顔を見せてくれることも増えました。そのたびに、距離が近くなったような嬉しさがあります。こちらから積極的に話しかけていなかった子どもも近寄ってくれます。最初は、子どもに自分から積極的に話しかけるのが得意ではない自分に悔しさを感じていました。でも、そのうちなんとなく距離が近くなっているのです。だんだん、こういう関わりもありだなと思うようになっていきました。回数を積み重ねることって、案外大事なかなと思うようになってきました。

特に専門的な知識がない人間でも、支援の場にいることに何か意味はあるのではないかと最近考えています。どんな意味があるか、あり得るか。まだ参加期間も短いのでわかりませんが、これからもげんきっ子に参加しながら考えていきたいと思っています。

ナイチンゲール研究会に参加して 看護学部 2 回生 小島唯

病気は健康への回復過程である

一般的に、「病気」というと、「苦痛を伴うもの」もしくは「それまでの体内への何らかの蓄積の結果として起こるもの」と思われがちです。

私は、ナイチンゲールの看護覚え書を学ぶまで、「病気」に対して負のイメージをもっていました。しかし、ナイチンゲールは、「病気というものとは必ず苦痛を伴うとは限らない」、「毒され、衰弱する過程を改善しようとする自然の業」であると言っています。つまり、病気は健康への修復過程であり、その終結は病気の状態と、その修復作用、そして修復にかかる看護の過程で決まるのです。

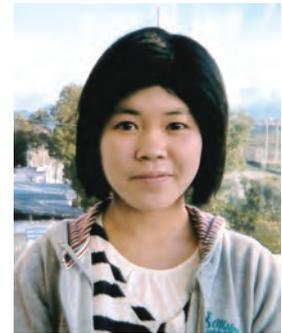
私は、ナイチンゲールの「病気は修復過程である」という考え方を知り、これを原点として看護に携わっていきたくと強く思いました。病気の種類はたくさんありますが、修復過程において、それは同時に「生きる喜び」を考えさせるものであると思います。

「神が定めた本来は治るものである」とナイチンゲールは言っています。看護師は治療というより看護をすることで、その人の幸せや生活を支援していくことが重要だと学びました。

看護は回復への変化をささえる

私がかく印象に残っているのは、「音」と「変化」の二章です。「音」の章では、「不必要な音や、心に何か予感させるような音は、患者に害を与える」ということを知りました。病室で行われるヒソヒソ話は、患者に「自分のことを言っているのではないか」と心配させることになります。患者の立場に立つとは、故意でなくても患者に気を煩わせないよう気づかいをすることだと思えます。患者は大抵医療者に気を使っている、その恐れが症状を悪化させることがあるためです。一方、孫のはしゃぎ声や好きなテレビの音など、患者にとって大切な「音」もあることに気づきました。ただ静かにするのはなく、患者の「病気を治す力」を消耗させず引き出せるよう、配慮できる看護師になりたいと思えます。

「変化」の章では、「変化が回復の手段になる」ということを学びました。変化は音の部分とも関連するといえます。「静かである」とは、言い換えれば「変化がなく単調」であるので



す。健康な人が毎日、学校や仕事に行くように、入院していても他の患者さんや看護師との会話、季節の移り変わり、旬の食材を使った食事、好きな絵を飾ること、レクリエーションに参加すること、寝たきりであれば体の向きを変えること、衣服の着脱や入浴において、変化をつけることが可能です。専門職として相手に合った変化を取り入れられるよう共に考えること、相手の変化に気づくことが大切だと思いました。「変化」の章での学びから、「学生が実習に来ること」も患者にとっての変化になるのだと気づきました。私たちにとっては短い期間ですが、患者にとって生活の変化となるのです。患者に少しでも「良かった」と思ってもらえるよう、臨地実習に臨もうと思います。

臨床看護師の経験を聞き、成長の糧にする

「ナイチンゲール研究会」では月に一度、本学内で学生、教員、学外の看護職の方たちが集い、ナイチンゲールの「看護覚え書」を通して、ナイチンゲールの考え方や看護を学んでいます。私にとっては、現在看護師として働いている方から臨床のお話を聞かせて頂ける貴重な機会となっています。また、「自分が目指す看護とは何か」を自分自身に問いかけることができます。学生としての自分の意見を表現することにも少しずつ慣れ、自分の成長につながると考えています。本学の学生の皆さんも興味があれば、ぜひ足を運んで頂きたいです。私たちといっしょに看護を学びましょう。お待ちしております。



ナイチンゲール研究会の様子

地域課題解決の取組（聖泉版・近江楽座）

「主権者教育プロジェクト」

（米原市、伊吹高等学校、米原高等学校との連携）

人間学部准教授 富川 拓

○プロジェクトの内容と成果

若者の投票率の低下が問題視される中、平成28年7月の参議院議員通常選挙から18歳以上が新たに有権者として投票することが可能となり、米原市においても、主権者教育の充実と積極的な啓発活動が必要とされていました。そこで、本プロジェクトでは当事者世代である「聖泉大学学生」と「米原市若手職員」で合同チームを結成し、政策形成のプロセスを学びながら、主権者教育を中心とした若者の投票率向上のための具体的な取り組みを企画、実施しました。

具体的には、大学生と採用1年目の市職員とで10人程度のチームを2つ作り、米原市の現状と課題を把握した上で、先進地の事例などの情報収集を行い、実行案として市内高校生を対象とした「主権者教育」出前授業を提案しました。11月30日には、米原市選挙管理委員会委員会の皆さまをお招きして中間報告会を開催し、12月14日に伊吹高校、19日には米原高校の2年生全員を対象とした出前授業（模擬投票など）を実施することができました。

○実施スケジュール

- | | |
|-----------|---------------------|
| 10月14日（金） | ①全体オリエンテーション |
| 10月19日（水） | ②現状と課題の確認、先進事例の情報収集 |
| 10月26日（水） | ③高校の見学 |
| | ④現状と課題の共有 |
| 11月 2日（水） | ⑤実行案の検討 |
| 11月16日（水） | ⑥実行案の検討 |
| 11月25日（金） | ⑦実行案の検討 |
| 11月30日（水） | ⑧中間報告会 |
| 12月 7日（水） | ⑨実行案見直し |
| 12月14日（水） | ⑩⑪伊吹高校 出前授業 |
| 12月19日（月） | ⑫⑬米原高校 出前授業 ⑭振り返り |
| 12月21日（水） | ⑮振り返り（大学生のみ） |

○出前講座の内容

- ・ 現状と課題の説明
- ・ 選挙に関するクイズ
- ・ 模擬選挙の公報配布、選挙演説
- ・ 模擬投票
- ・ グループワーク
- ・ 模擬選挙の結果発表、当選者挨拶
- ・ まとめ



高校生を対象とした模擬投票の様子



学生と若手職員の合同チーム

「聖泉オリジナル体操プロジェクト」

(彦根市肥田町・田原町、愛荘町との連携)

人間学部講師 多胡陽介 看護学部講師 安孫子尚子

プロジェクトの内容

日本は超高齢社会に入り、今後も、さらに高齢者人口は増加していきます。介護が必要となる期間を遅らせて健康寿命を延伸し、いつまでもいきいきと住み慣れた地域で暮らしていくためには、生活習慣病の発症を未然に防ぐことやの介護にならないための介護予防への取り組みが重要となります。地域で行う健康づくりは、健康づくりの専門家や運動指導者が中心となって指導するだけでなく、地域住民が自主的に健康づくりを行うことが求められています。このような社会状況のなかで、地域では自主グループで行う介護・転倒予防の取り組みが徐々に浸透し実施されています。自主グループ活動で実施する運動が身体に効果をもたらすためには、運動する間隔が定期的であり、活動する期間が継続的に行われることが重要になります。しかし、自主グループを運営するリーダーから毎回同じ運動プログラムとなっており、参加者の飽きが生じているために、新しい体操を紹介してほしい等の要望があり、活動を継続するための地域の課題があることが明らかとなりました。

そこで、今回のプロジェクトでは、聖泉版のオリジナル体操を作成し、地域の自主グループや介護予防グループ、サロン活動などで活用できるよう取り組みます。

オリジナル体操の作成では、高齢期の身体に必要な運動内容を取り入れ、かつ楽しんで行える体操を教員、学生、地域住民でつくります。また、作成したオリジナル体操をDVDにまとめて地域で披露し、地域で取り組まれている自主グループや介護予防グループ、サロン活動の場で活用してもらえるように普及を行います。

成果と課題

教員と学生が意見を出し合い、約30分の聖泉オリジナル体操のサンプル・バージョンを完成することができました。聖泉オリジナル体操の特徴は、①彦根の原風景や四季をイメージした動き、②自主グループなどで無理なく楽しく行える運動、③タオルを用いた心地良い体操、④介護予防・転倒予防に効果が出ること、⑤体操を普及する人(自主グループリーダー、学生)にとっても無理なく教えられることの5つを設定し、親しみをもってもらえるように工夫しました。今後は、自主グループなど地域の方の声を基に体操の細かな修正を行い、完成バージョンを作ることが課題です。また、完成バージョンが出来たら、体操の普及を手伝ってくれる地域の方や学生を中心に普及を行っていきます。



タオルを用いた体操



地域の方と一緒に健康体操

学生の地域交流とボランティア活動

とっと祭り2016

活動報告

看護学部 2回生 齋藤春佳

活動内容

地域の伝統舞踊である江州音頭を浴衣を着て、地域のお祭りに参加し、町民の皆さんと一緒に大きな輪を作って楽しく踊りました。また、お祭りに参加する前に江州音頭の踊りを教えてもらい、休み時間を使って練習をしました。交流を通じて、地域の方と話したりすることができました。

感想

初めて地域の伝統的なお祭りに参加させてもらいました。私は地方から豊郷町に下宿しており、豊郷町にはたくさんの伝統的な文化があることを、このお祭りを通じて知ることができました。地域の人やたくさん人と輪になり、踊ったり、交流をもつことで、地域の方々の温かさを感じることができました。お祭りをきっかけに、若い世代の人たちが地域をもっと盛り上げていけるように、地域の行事に参加したいと思いました。



大学で江州音頭を練習



彦根ばやし総おどり大会・2016

彦根の夏のクライマックス。「彦根ばやし」に合わせて数千人の市民が商店街を踊ります。聖泉大学からは総勢80名の学生・教職員が浴衣やハッピー姿で参加しました。



のびっこクラブ運動あそび

NPO法人のびっこクラブより依頼があり、スポーツを取り入れた遊びの企画・支援を人間学部炭谷准教授と健康運動心理専攻所属の学生3名が行ないました。

今回は2校の交流と共に小学1年生から6年生までの発達段階が異なる児童約100名が対象のため、全ての子どもたちが工夫をしながら楽しめる内容にするよう、何日も前から様々な企画や運営方法を考えてきました。また、当日の一日限りではなく、今後も出来るような運動遊びを考えました。

当日は、本学教員・学生の指導のもと、二つのクラブの全ての学年が交流できるように工夫し、4グループのチーム対抗のニュースポーツの運動会を実施しました。「紙ひこうき飛ばし」「カゴ入れ」「キックターゲット」「ボールリレー」等をおこない、子ども達は夢中でボールを追いかけ、声を上げて楽しんでいました。



学生達は、子ども達が楽しみながらも様々な工夫や助け合い等の気づきが得られるようにサポートしました。一度に100名の児童をサポートするのは、人数も多く大変でしたが、学生たちにも多くの学びがありました。

今後も学生の学びや成長に繋がる地域活動について、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

第7回 愛荘66かまど祭

第7回は、「『愛笑』笑う門には福来る」をテーマにし、愛荘町の特産品販売、団体活動の紹介・体験、ステージイベント、子供向けイベント、フリーマーケット等を開催されました。本学からは、運営スタッフとして14名の学生が参加しました。地域住民の方々との交流もでき、充実した1日を過ごしました。



ボランティア一覧

実施日	依頼団体	内容	参加人数
8月8日	公益社団法人彦根観光協会	彦根ばやし総踊り	80人
8月12日	彦根市議会	市議会議員と議論しよう	5人
9月25日	長浜バイオ大学	講演会運営スタッフ	5人
10月16日	滋賀県薬剤師会	危険薬物乱用防止スタッフ	4人
10月30日	愛荘町商工会	かまど祭り運営スタッフ	14人
11月3日	彦根観光協会	小江戸彦根の城まつりパレード参加	2人
11月5日	さわらびまつり実行委員会	似顔絵スタッフ	2人
11月27日	近江八幡総合医療センター	災害医療訓練参加	5人

ボランティアの依頼・相談

聖泉大学 学生課 ボランティア担当

TEL:0749-43-7510 FAX:0749-43-5201 E-mail:gakusei@seisen.ac.jp

健康づくりリーダー養成講座（初級編）

全体の概要

本養成講座では自らが主体となり、地域の健康活動を推進できる人材を育成します。主に高齢者自主グループのリーダーや健康関連のリーダー、これから地域で健康づくりを推進したいとする方、自身の健康増進に関する知識や技能を高めたい方を対象とし、中高齢期の健康づくりにおいて必要な内容を中心に看護学や心理学などの特色を活かしたトピックスを伝えます。また、修得した知識や技能をそれぞれの自主グループやサークルに持ち帰って活かしてもらえよう内容を充実させます。また、これからリーダーとして活躍したい方には、聖泉オリジナル体操の普及を中心に地域の健康づくりを推進して頂きたいと考えています。初級編では、自身の健康度を知り、運動への肯定感（楽しさ・心地良さ）を高め、安全に運動を行うための基礎知識を修得することを目的として行いました。



トータルコーディネーター 多胡陽介

講座内容

回	講座名	日時	場所
第1回	体力測定と健康相談～自分の健康状態を知ろう～	平成28年9月10日（土）10:00～12:00	聖泉大会議室
第2回	ノルディックウォーキング体験	平成28年10月8日（土）10:00～12:00	聖泉大会議室
第3回	運動と心の健康 ～簡単な音楽体操やレクリエーション活動を通じて～	平成28年11月26日（土）10:00～12:00	聖泉大会議室

第1回

体力測定と健康相談～自分の健康状態を知ろう～

講師：間 文彦（看護学部 准教授） 中島真由美（看護学部 講師）

参加者：18名

第1回目の講座では、安全に運動を行うための基礎知識への理解と自己の体力評価を行いました。安全に運動を行うためには、体調チェックや運動前の準備体操などが欠かせません。また、脈拍数などの測定を行えば、より安全に運動を行うことができます。体力測定では、高齢期に特に重要な筋力や筋肉量、歩行能力を中心に測定を行いました。また、測定した結果をもとに自己評価を行い、日々の生活を見直すきっかけとしました。



第 2 回

ノルディックウォーキング体験

講師：多胡陽介（人間学部 講師）

参加者：25 名

第2回目は、近年注目を集めているノルディック・ウォーキングを行いました。ノルディック・ウォーキングは専用のポールを用いて歩く健康法であり、普通に歩くよりも効果が高く、消費エネルギー量が増えたり、きれいな姿勢で歩けるなど科学的にも効果が立証されています。当日は、ノルディック・ウォーキングの科学的効果への理解を深め、ポールを用いた体操や基本的な歩き方を習得し、実際に大学周辺を歩いて効果を実感しました。



第 3 回

運動と心の健康～簡単な音楽体操やレクリエーション活動を通じて～

講師：炭谷将史（人間学部 准教授）

参加者：21 名

第3回目は、本学の炭谷准教授より運動と心の健康に関する講義を前半に行いました。運動することと心の健康はつながっており、適度に身体を動かすと心の調子が良くなります。また、仲間と会話を楽しんだり、美味しいものを食べたり、楽しいことを優先にしつつ、同時に運動を行うという考え方も大切であるとのことでした。後半は、簡単に楽しく運動できる体操やレクリエーションを行い、心と身体をつながりを実感することができました。



アンケート結果（参加者の声）

- ・興味ある内容をわかりやすく教えていただき、よかったです。運動・体を動かす効果や楽しさを伝えていけるようになりたいです。
- ・地域と関わりのある講座をこれからも続けてください。できるだけ参加したいと思います。地域で活動する際の参考にもなります。中級編を楽しみにしています。
- ・心が外にあると考えればいいことは目からウロコでした。
- ・身体のこと、心のこと、運動体験など、様々な内容が学べて良かったです。
- ・沢山の方が参加されていて、わきあいあいと楽しく参加させて頂きました。まず動く、行動する、ことを心がけたいと思います。

平成28年度 公開講座

第1回

「楽しく歳を重ねるコツ」

～高齢期の身体の特徴と地域における取り組み～

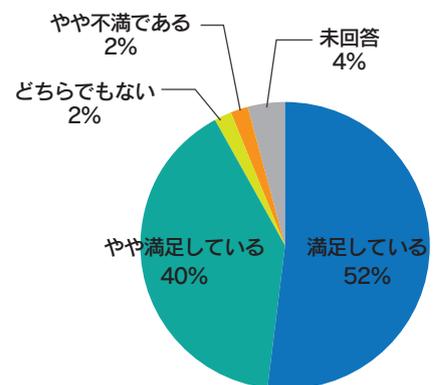
日 時 平成28年6月25日(土) 13:30～15:00
 講 師 多胡陽介(人間学部 講師) 安孫子尚子(看護学部 講師)
 参加者数 55名

概要

本養成講座では自らが主体となり、地域の健康活動を推進できる人材を育成します。主に高齢者自主グループのリーダーや健康関連のリーダー、これから地域で健康づくりを推進したいとする方、自身の健康増進に関する知識や技能を高めたい方を対象とし、中高齢期の健康づくりにおいて必要な内容を中心に看護学や心理学などの特色を活かしたトピックスを伝えます。また、修得した知識や技能をそれぞれの自主グループやサークルに持ち帰って活かしてもらえるよう内容を充実させます。また、これからリーダーとして活躍したい方には、聖泉オリジナル体操の普及を中心に地域の健康づくりを推進して頂きたいと考えています。初級編では、自身の健康度を知り、運動への肯定感(楽しさ・心地良さ)を高め、安全に運動を行うための基礎知識を修得することを目的として行いました。

アンケート結果

- ・楽しく認知症予防やロコモ予防ができることを改めて学ぶことができました。
- ・口腔機能の腺のもみほぐしと演歌体操が新鮮でした。
- ・運動に参加して頑張っています。お話しをお聞きしてこれで良かったという思いを持ちました。これからも続けて行きたいと思いました。
- ・各分野や項目の関連を分かり易くお話しくださり、またとても関心を惹きつけられるトピックがたくさん含まれていて興味深くお伺いしました。
- ・自分自身が、地域の高齢者の方々に向けて啓発していく立場にありますので、今日ご教示いただいたことを、活用していきたいと思います。



第 2 回 「身近な人が認知症になったら」

日 時 平成 28 年 8 月 20 日 (土) 13:30 ~ 15:00
場 所 聖泉大学 455 教室
講 師 安田千寿 (看護学部 准教授)
参加者数 63 名

概要

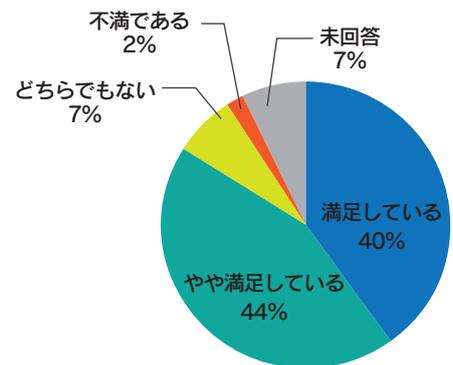
今やこの言葉を知らない人はいないほど、認知症という病は身近になってきました。ご本人だけでなくご家族のような関わるすべての人が、一緒になって困ったり不安になったりされる中、この講座では基本的な認知症の症状や進行の様子をお伝えしました。

また、端から見ると「困った」と捉えられがちな「何度も同じ話を繰り返す」、「実際には起きていないことを本当のように話す」「急に不機嫌になる」などの行動にはちゃんと背景があり、理由があり、これまで育てられてきた己の価値観に左右されているようです。そんなことをいくつかの事例を通してご紹介し、「人」対「人」として関わり合いが持てる社会にできたらという思いをお届けしたつもりです。認知症になったとたん「何もできない人」になるわけではなく、部分的な病の症状を抱えながらも当たり前の生活を送る生活者であることを、この機会に改めて感じていただけたら嬉しいです。(安田千寿)

アンケート結果

- ・病院に勤務しているナースなので、普段のケアの復習・確認が出来た。
- ・親が認知症になりつつあるので、とても参考になった。
- ・認知症の人に役割を持っていただくことで安心感につながるということを関係者の中でも共通認識をもってもらうことが大切だと感じました。一人の人として接することを忘れないよう、認知症だからと特別視しないというのも大切だと思いました。
- ・関わる時に大変役に立つ。具体的な行動についての講義があつたいへんありがたかったです。訪問看護師をしています1つ1つ役に立つことでありがたかったです。今後も安心を得てもらう生活ができるように支援していきたいと思ひます。

平成 28 年度
聖泉大学
第 2 回公開講座
今年度のテーマ
「高齢者と介護者の「こころと身体」の健康講座」
日 時
平成 28 年
8/20(土)
【受付】13:00~
【開演】13:30~15:00
場 所
聖泉大学 455 教室
(本館・4F)
滋賀県彦根市肥田町 720 番地
講 師
安田 千寿
聖泉大学 看護学部准教授
高齢者は身体機能に低下し、認知症、うつ病、痴呆症、脳卒中、がんなどの疾患発症のリスクが高くなる。その中でも認知症は、高齢者健康増進の最大の課題の一つである。認知症の予防、早期発見・早期治療、認知症と向き合うための生活支援など、高齢者の生活の質を向上させるための取り組みが重要である。本講座では、認知症の予防、早期発見・早期治療、認知症と向き合うための生活支援など、高齢者の生活の質を向上させるための取り組みが重要である。本講座では、認知症の予防、早期発見・早期治療、認知症と向き合うための生活支援など、高齢者の生活の質を向上させるための取り組みが重要である。
今や認知症について広く知られる病気がなりました。しかし、身近な人が認知症になられた時、どう接して良いかわからないという声を聞きます。今回の講座を通して、皆さんと一緒に考えていきましょう。
主催：聖泉大学地域連携交流センター
後援：彦根市



第3回 「介護者の生きるイメージ～超越性と現実性～」

日 時 平成 28 年 11 月 20 日 (日) 10:30 ~ 12:00
 場 所 聖泉大学 455 教室
 講 師 新美秀和 (人間学部 准教授)
 参加者数 47 名

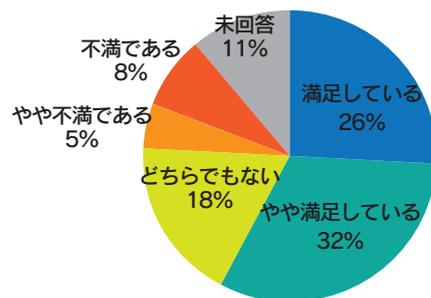
概要

本講演で演者は最初にイメージというものについてお話した。イメージとは一般的に、心の中にあるものだと思われる。が、演者の依拠するユング心理学ではそうは考えない。人はイメージのなかに生き、イメージのなかで死んでいく。イメージは我々の認識を制約し、行動をある方向に導いていく。イメージは心の中にあるところか、つねにこの現実をさえ超越しており、この現実を作り出すとさえ考える。対人恐怖症者にとって、世界は確かに恐ろしい場所なのだ。

ではイメージは不変なのか？ イメージととことん向き合い、心のエネルギーを投じていく中で、変化はほとんど偶発的に起こり得る。ユング心理学ではそう考える。そしてそうした変化のときには、文学者鶴見俊輔が「神話的時間」と呼んだような不思議な時間が流れるとされている。本講演では、絵本作家マリー・ホール・エッツが夫の介護に携わりながら森の中で描いた作品を見ていきながら、彼女の生きるイメージが変化したと思われる瞬間を取り上げ、考察した。(新美秀和)

アンケート結果

- ・個体としての死は種としての生の一部であることを感じました。
- ・余り慣れない分野として何か学べたらと思う。介護社会において介護者の存在・意識を少しでも理解できたら・・・
- ・介護者視点での深層心理イメージを考える機会になったと思います。
- ・大変意味深い話であった。絵本「もりのなか」は各々に感じ考えるところが多かった。「かないくん」素晴らしい内容の絵本から、いろいろなイメージがわいた。何よりの時間でした。
- ・介護をしている立場、介護を支援する立場のため、心理的に学びたいため参加させて頂きました。



卒業生の地域貢献

人間学部卒業 世森浩平

特別養護老人ホーム
アンタレス勤務

聖泉大学での学びと仕事

私は聖泉大学在学時、主に健康運動心理について学びました。座学はもちろんですが、実践を交えて学ぶことも多かったように思います。

大学内での学びの他にも、ゼミ活動の一環で地域に出て様々なボランティア活動を行ってきました。地域の方たちと交流することで「人のために行動すること」の大切さを学びながら、なかなかできない経験をさせていただきました。

様々な学びや体験によって私自身成長することができたかなと思いますし、本当に人生の大きな財産だと感じています。聖泉大学だから経験できたことばかりだと思っています。

仕事内容の紹介

私は現在、特別養護老人ホームという場所で介護職員として働いています。ここでは高齢者の方が生活をされていて、



食事や入浴など日常生活を支える仕事をしています。いろいろな方がおられ、その人その人にあつたケアをするにはどうしたらよいか試行錯誤しながらの毎日です。人相手の仕事なので命に関わることも多々あります。責任を感じる仕事ですが、その分やりがいというものとても感じることができます。

今後の目標・抱負

今後も高齢者の方たちに毎日笑顔で、その人らしい生き方ができるように一生懸命力を尽くしていきたいと思っています。その為に、まだ取得していない国家資格にも挑戦し、知識的にも、実践的にもレベルアップしたいと考えています。



看護学部卒業 正田恭子

彦根市立病院 5A 病棟 勤務

聖泉大学での学びと仕事

基本的なアセスメントや観点を大学で学び、その観点が実際の現場で考える基礎力になっていると思います。また実習で患者さんとの信頼関係の構築の難しさや嬉しいこと、死別するということなど、人と関わる経験が今の現場での支えとなっています。そのような状況の中でどう看護していくか個別性が必要であることの重要性を大学で学びました。



ています。その中で受け持った患者さんが術後急変され、その時先輩看護師の指導の下、医療処置を行ったことで、退院時に患者さんと家族に「あの時はありがとうございました」と笑顔で退院されたことがあり、人の命を助ける、守るといふことの嬉しさを感じられる仕事だと思っています。

今後の目標・抱負

業務をする中で医療者の立場で考えてしまいがちですが、その中でも患者さんの気持ちに寄り添い、患者さんにとってより良い治療方法や看護が提供できる看護師になりたいと思います。また急性期病棟という事で当科の疾患以外の患者さんも入院されることがあるため、急変時の対応ができるように知識を深め、色んな経験を積んでいきたいと思っています。

仕事内容の紹介

急性期病棟であり、大腿部頸部・転子部骨折や熱傷・褥瘡で来られる患者さんが多く、手術後からリハビリ病院や施設へ行くまでの過程を看護していく病棟です。整形・形成外科では急変することは少なく、主に手術後の医療処置や手術後から自宅やリハビリ病院へ転院していくまでの生活援助をし



大学附属施設の機能・概要

図書館

図書館は、学術に関する研究・学習の目的をもって、本学図書館のサービスを必要とされる方であれば、どなたでも利用できます。公共図書館とは少し異なり、身近な内容の図書というよりも、聖泉大学の学科（人間心理学科・看護学科）に関する専門的な図書・雑誌、その他資料を有するのが特徴で、各専門領域に関する図書、雑誌の類は大体揃っていて、開架式で、手に取って眺め吟味し、閲覧室で読み調べたりできます。また、データベース（医中誌Web、CiNii、CINAHL等）と電子ジャーナルや雑誌（冊子体）をつなげるシステムのSFX（リンクリゾルバー）により、全国の大学図書館で所属している図書・雑誌の最新情報が検索でき、本学図書館を通して図書を借出ししたりコピーを入手したりできます。詳しくは本学ホームページをご覧ください。

連絡先

E-mail: library@seisen.ac.jp



国際交流センター

国際交流センターは、平成25年度に設立された新しい組織です。主な事業は、本学学生の異文化交流事業および海外の大学との連携事業です。異文化交流事業では、ミシガン州立大学連合センターが主催する英語づけプログラムへの参加補助を行い、学生が留学等の国際進出の第一歩を踏み出す活動のサポートをしています。また、海外の大学との提携事業では、中国との連携を中心に進めており、現在12の大学との連携を進めています。現在は主に中国人留学生の受け入れを行っており、学内の国際化につながっています。

滋賀県内に居住する外国籍の方々との交流などのご要望があれば下記にご連絡ください。

連絡先

TEL: 0749-43-7512 (学生課)

E-mail: kokusai@seisen.ac.jp



聖泉大学カウンセリングセンター

現在の社会は情報化の進展と物質的豊かさにより、人間にもたらされる精神的なひずみからくる「心の問題」が指摘されるようになってきました。特に、社会的に孤立したり閉鎖的な心の状況にある人に対して、心の支援をする必要が強く求められています。聖泉大学では、平成15年に人間心理学科を設置して以来、地域に開かれた相談室としてカウンセリングセンターを設け、ご相談を受け付けております。ご相談は本学の臨床心理士が担当し、秘密は厳守いたします。どうぞ気軽にお越しください。

連絡先

TEL: 0749-43-7623

FAX: 0749-47-8047



学部附属施設の機能・概要

■ 看護キャリアアップセンター

聖泉大学看護キャリアアップセンターは、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場、また保健医療福祉・教育現場の相互交流の場としての役割を担うことを目的に2011(平成23)年、看護学部開設と同時に設置され7年目を迎えました。当センターでは、次の事業を行っています。

- ① 看護の質の向上を目指し看護研究をテーマとした講座の開設
- ② 地域の医療関係者、看護教育関係者の研究のサポート
- ③ 地域の医療関係者、看護教育関係者との共同研究
- ④ 地域医療の向上のための研究・調査に関する事業
- ⑤ 当大学卒業生の研究、研修のサポート
- ⑥ その他、センターの目的達成のために必要な事業

特に力を入れている事業は、看護の質の向上を目指し、看護研究をテーマとした【キャリアアップ講座】であります。研究の進め方、文献検索、研究方法、データ分析、まとめ方と発表、研究相談までを<ホップ><ステップ><アップ><サポート>として、4回(4日間)開講し、全て受講した方に修了証を交付しております。2011(平成23)～2016(平成28)年度の6年間で修了者は95名に達しました。加えて特

別講座<ジャンプ>として、統計解析を中心としたレベルアップ講座の開設や研修後も引き続き研究の質問や相談ができる道を開いています。滋賀県内の多くの看護職等の方々が<キャリアアップ講座>を受講していただきましたことに感謝申しあげ、当センターが教育・研究の相互交流の場としての役割を担い、充実・発展してきておりますことを大変嬉しく思っております。次は、修了生の方達が臨床看護の場においてどのような形で活かされているか、その成果とニーズを把握し、当センター事業に反映していくことを課題としております。

また、看護学部第3期生までが卒業しましたので、卒業生を対象に卒後1年目、卒後2年目研修会を開催いたしました。当センターがより一層、目的に向けた役割を果たしていけますよう、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。詳細はホームページをご覧ください。



連絡先

E-mail: kango-career@seisen.ac.jp

■ 人間学部附属スポーツ・身体運動支援センター

身体運動支援センターは、平成20年に前身スポーツ文化研究所として設立され(平成26年4月より改名)、以来2つのねらいを達するべく活動を展開してきました。

- ① スポーツや健康づくりに関する聖泉大学の資源を活かした地域住民のQOLの向上
- ② 聖泉大学が特別に支援する3つの部活動(男女ホッケー部、女子サッカー部)の活動充実

具体的な活動としては、近隣の幼稚園児・小学生を対象とした運動・スポーツ活動のサポート、高齢者自主グループを対象とした介護予防運動のサポート、県内機関との共同でのイベント実施などです。また、健康づくりリーダー養成講座への様々な協力を行っています。

特別支援クラブは、設立より9年が経過し、女子ホッケー部では平成25年には全日本学生選手権大会(インカレ)で全国3位、平成27年シーズンより日本リーグに参戦、男子ホッケー部は平成27年シーズンに全日本大学王座決定戦でベスト8に進出するなどの活躍を見せています。女子サッカー部

は、卒業生がなでしこリーグで活躍したり、関西女子サッカーの1部リーグに昇格するなど、チームや個々の選手の活躍が目覚ましい。

健康づくりや各種スポーツ活動の指導等が必要な場合は、下記に連絡してご相談ください。

連絡先

TEL: 0749-43-3600 (大学代表)

E-mail: sports@seisen.ac.jp



教員紹介 (研究者一覧)

聖泉大学には心理学・看護学を中心に様々な専門を持つ教員がおりますので、お気軽にご相談ください。各教員の学部・職位・領域・専門分野・主な研究テーマ・地域社会のために出来ることについて『人間学部』『看護学部』『大学院看護学研究科』『別科助産専攻』の順にご紹介いたします。

■お問い合わせ

聖泉大学地域連携交流センター

TEL:0749-43-7510 FAX:0749-43-5201

E-mail:renkei@seisen.ac.jp



人間学部は、『臨床発達心理領域』『健康運動心理領域』『ビジネス心理領域』の順にご紹介いたします。



高橋 啓子 TAKAHASHI Keiko

学部 職位 人間学部 教授 (副学長・学部長)
領域 臨床・発達心理

専門分野 心理カウンセリング、臨床心理学

主な研究テーマ

地域支援としてのカウンセリング活用

地域社会のために できること

人間学部は心理学を専門としています。先端をいくストレス研究や心の奥深い領域から生じる現象まで幅広い人間研究の場でもあります。例えばカウンセリングセンターは地域に開かれ、多くの人が相談に通ってこられます。学んだことが社会で生かされるという喜びが学生を育てていくと思います。



李 艶 LI Yan

学部 職位 人間学部 教授
領域 臨床・発達心理

専門分野 社会心理学、異文化間心理学
産業・組織心理学、社会心理調査

主な研究テーマ

①一つの心に多様な文化存在の要因 ②集団行動における比較文化心理学 ③仕事の動機づけ、達成動機の比較文化研究 ④メタ認知機能 ⑤自律的キャリア形成

地域社会のために できること

若い学生諸君を地域貢献できるような人材を育成するため、日々努力します。そのため、地域社会の理解につながる知識とスキルを学生に身に付けさせ、さらに実践的に地域社会活動にかかわるよう強い意志を持たせます。



新美 秀和 NIIMI Hidekazu

学部 職位 人間学部 准教授 (学科長)
領域 臨床・発達心理

専門分野 カウンセリング、心理検査

主な研究テーマ

主たる研究テーマは心理臨床場面で描かれる絵の解釈法です。また近年、地域における心理的支援活動にもゼミ生とともに取り組み始めています。

地域社会のために できること

臨床心理士としてこれまで個人面談を中心に活動してきましたが、悩める人や困っている人にとってほんやりできるような、居心地のいい場所作りにも関心があります。学生とともに活動してまいりたいと思います。



谷口 麻起子 TANIGUCHI Makiko

学部 職位 人間学部 准教授
領域 臨床・発達心理

専門分野 臨床心理学、心理臨床学

主な研究テーマ

摂食障害の心理と治療について。心理検査。保護者・教員支援。

地域社会のために できること

摂食障害についての講演会。乳幼児～青年期の発達や心理、問題行動や関わり方についての研修会や講演会。心理的問題に関するカウンセリングやコンサルテーション。心理に関する調査研究。



押岡 大覚 OSHIOKA Daisuke

学部 職位 人間学部 准教授
領域 臨床・発達心理

専門分野 心理療法論 力動的発達論
発達障害論

主な研究テーマ

心理臨床家に対する教育・訓練としてのフォーカシング指向グループについて
心理治療場面での "治療者-患者関係" における "治る力" と "治す力" の力動性について 他

地域社会のために できること

本学カウンセリングセンターにおいて、相談員(臨床心理士)として広く地域の皆様にカウンセリングサービスを提供しています



布井 雅人 NUNOI Masato

学部 職位 人間学部 講師
領域 臨床・発達心理

専門分野 認知心理学

主な研究テーマ

選好形成に及ぼす認知的・社会的要因について

地域社会のために できること

人の行動の多くは「好き」という感情によってもたらされるものです。つまり、様々な行動の背後にある「好き」という感情の理由を分析することは、様々な行動の見直し・改善へとつながります。そのような分析のお手伝いができると考えています。



炭谷 将史 SUMIYA Masashi

学部 職位 人間学部 准教授
領域 健康運動心理

専門分野 運動心理学、スポーツ心理学

主な研究テーマ

- 1) 子どもの運動遊びと心身の発達
- 2) 子どもの運動遊びを促進する環境づくり
- 3) 子どもの運動遊びへの大人の関わり方

地域社会のために できること

保護者対象の子育て支援や幼児・児童を対象とした運動遊び教室・クラブを主宰する社団法人を主宰しています。地域の子どもたちと一緒に遊んだり、運動能力を高めるための各種運動指導、保育園・幼稚園や保護者の方々を対象とした発達に関する講演等、対応させていただきます。



多胡 陽介 TAGO Yosuke

学部 職位 人間学部 講師
領域 健康運動心理

専門分野 スポーツバイオメカニクス
レクリエーション学、健康運動科学

主な研究テーマ

健康運動や競技スポーツの動作分析、健康運動の実践方法

地域社会のために できること

現在、地域の中高齢者の方を対象に運動やスポーツによる健康づくり活動を行っています。具体的に出来ることは、レクリエーションや健康運動の実践講座、中高齢者を対象にした体力測定等です。



山堀 貴彦 YAMAHORI Takahiko

学部 職位 人間学部 助教
領域 健康運動心理

専門分野 運動方法、コーチング

主な研究テーマ

- ・フィールドホッケーの普及
- ・フィールドホッケーの動作・戦術分析

地域社会のために できること

フィールドホッケーを通じて、地域の子供達にスポーツの価値を知ってもらうことや仲間とのつながり（チームワークの大切さ）を体感してもらえよう、意欲的に取り組んでいます。



方 蘇春 FANG Suchun

学部 職位 人間学部 教授
領域 ビジネス心理

専門分野 経営学、経営工学、中国経済

主な研究テーマ

1. 滋賀県のインバウンド資源活用に関する研究
2. 日中長寿企業に関する比較研究
3. 日中自動車産業に関する比較研究
4. 日中企業交流に関する系統的研究 等

地域社会のために できること

日本に訪れる観光客は年々増加しており、そのうち半数以上は中国大陸・台湾・香港出身者に占められている。一方、滋賀県は豊富なインバウンド資源を有しながら、十分に発揮できていないと言われている。そこで、本研究室は、とりわけ中国系訪日観光客の滋賀県に対する認知度調査などを通じて、滋賀県の魅力をより一層訪日観光客に伝える対策を提案することで地域貢献を図ろうとしている。



唐 楽寧 TANG Lening

学部 職位 人間学部 教授
領域 ビジネス心理

専門分野 管理会計、経営戦略、語学教育

主な研究テーマ

人的資源に関わる会計問題
企業の人的資源に関する支出の取扱い、人的資源価値の測定及び企業価値との関わりを検討し、信頼性と有効性の高い人的資源情報の測定・伝達システムのあり方を研究する。

地域社会のために できること

中小企業の経営活動、企業の中国進出事業などへの支援、地方自治体の国際交流事業、国際理解教育などへの支援



脇本 忍 WAKIMOTO Shinobu

学部 職位 人間学部 准教授
領域 ビジネス心理

専門分野 社会心理学

主な研究テーマ

①笑いコミュニケーション ②沖縄離島の文化に関する社会心理学的研究 ③観光マーケティングと地域活性化

地域社会のために できること

まちづくりは地域特性を最大活用することが重要です。しかし、同じ顔触れで継続すると、近視眼的になり硬直します。まちづくりには「若者・バカ者・よそ者」のアイデアと実行力が必要だといわれています。理論と実際をご紹介します。



富川 拓 TOMIKAWA Taku

学部 職位 人間学部 准教授
領域 ビジネス心理

専門分野 社会学

主な研究テーマ

サービス・ラーニング、PBL、キャリア教育、男女共同参画

地域社会のために できること

- ・地域課題の解決を目指す実践研究「男女共同参画」「主権者教育」など
- ・研修会等の講師「男女共同参画」「ジェンダー」「キャリア教育」「PBL」「サービス・ラーニング」など
- ・審議会等の委員「男女共同参画」「総合計画」など



小澤 克彦 OZAWA Katsuhiko

学部 職位 人間学部 講師
領域 ビジネス心理

専門分野 情報学

主な研究テーマ

高等学校教科「情報」に関する研究。生活困窮家庭の学習支援に関する研究。

地域社会のために できること

地域社会のためにできること：パソコンが苦手な人のWORD、EXCELのパソコン教室。生活困窮家庭の学習支援活動（現在、彦根市中地区公民館で実施中）。楽しく安全なスキー指導。



山口 隆介 YAMAGUCHI Ryusuke

学部 職位 人間学部 講師
領域 ビジネス心理

専門分野 中世哲学

主な研究テーマ

西洋中世のキリスト教哲学
特にトマス・アキナスの思想

**地域社会のために
できること**

宗教哲学を研究しておりますので、地域の祭りや寺社など宗教文化、最近では道端の地蔵や祠に興味を持っています。あちこちに存在しているながらその価値を忘れられているものに光を当てることに協力したいと思えます。



末松 史彦 SUEMATSU Fumihiko

学部 職位 人間学部 教授
領域 一般教養

専門分野 日本史(近世史)

主な研究テーマ

彦根藩政史の研究

**地域社会のために
できること**

彦根城の世界遺産登録に向け、彦根藩の歴史を紹介するなど、市が進める地域づくりや景観づくりに参画し、その伝統的地域を保全していくためにも町内組織をはじめとする、地域防災への積極的な参画・協力。



筈井 美邦 HAZUI Yoshikuni

学部 職位 人間学部 教授
領域 一般教養

専門分野 労務管理、教育学

主な研究テーマ

教育効果をもたらす部活動の取り組みとは
～26年間にわたる指導体験を通して～

**地域社会のために
できること**

バレーボールの指導を通しての地域貢献



森 雄二郎 MORI Yujiro

学部 職位 人間学部 講師
領域 一般教養

専門分野 人間文化学 教育社会学

主な研究テーマ

「多様な背景を持つ人々が協働・協創する場・社会づくり(コミュニティデザイン)に関する研究」「多文化共生をテーマとする多文化教育の手法や教材開発に関する研究」

**地域社会のために
できること**

多彩なワークショップを用いて、身近な人間関係づくりから職場や地域活動のチームビルディングまで、主体的に参加者が学びあう場づくりを支援します。「人間関係トレーニング」「ファシリテーション入門」「まちづくりワークショップ」など

看護学部

看護学部は専門によって、9つの領域に分かれています。『基礎看護領域』・『成人看護領域』・『老年看護領域』・『母性看護領域』・『精神看護領域』・『小児看護領域』・『地域看護領域』・『在宅看護領域』・『養護領域』の順にご紹介いたします。

()内は職位 []内は大学院の領域



小山 敦代 KOYAMA Atsuyo

学部 職位 看護学部[看護学研究科]
領域 教授(副学長)
基礎看護学[看護教育学]

専門分野 基礎看護学、看護教育学

主な研究テーマ

看護教育に関する研究
看護における補完代替医療/療法
(Complementary and Alternative
Medicine/Therapy)に関する研究

**地域社会のために
できること**

“元気が一番!”と思い、長い間、看護・学生教育に携わってきました。特に様々なストレスにうまく対処し、心身ともに良い状態を維持していけるように、“こころとからだを調えるリラクゼーション法”をセルフケアや健康寿命アップに繋げられたらと考えています。



大川 眞紀子 OKAWA Makiko

学部 職位 看護学部 准教授
領域 基礎看護学

専門分野 基礎看護学

主な研究テーマ

看護技術について「見える」「わかる」「身に付ける」、型から体得させる「学びの身体性」の考えを教育方法に取り入れる。

**地域社会のために
できること**

「健康長寿」は、誰もが望むことである。地域の健康を考えるグループ作りを支援し、協働体制を対象者と共に考える。



井上 美代江 INOUE Miyoe

学部 職位 看護学部 講師
領域 基礎看護学

専門分野 基礎看護学

主な研究テーマ

学生の看護技術の主体的な学習方法に関する研究

**地域社会のために
できること**

元気に過ごすためには食事、活動とともに最大の休息と言われている睡眠がとても大切です。現在は社会全体が眠らなくなってきています。このような日常において、睡眠はどうして大切なのか、睡眠時間の現状、睡眠に対する工夫など地域の方たちと話し合いができればと考えています。



今井 恵 IMAI Megumi

学部 職位 領域 看護学部 助教
基礎看護学

専門分野 基礎看護学

主な研究テーマ 看護技術教育における「ボディメカニクス活用」の効果的な教授法の研究

地域社会のためにできること 在宅療養における介護者の腰痛に関するご相談、腰痛予防や軽減についての取り組みへの協力や支援



千田 美紀子 SENDA Mikiko

学部 職位 領域 看護学部 助教
基礎看護学

専門分野 基礎看護学

主な研究テーマ 臨地実習における指導者と教員との連携の在り方

地域社会のためにできること 今まで看護学生にとってどのような環境であれば学習しやすいのか、なりたい看護職者になるためにはどのような支援が必要かということを考えてきました。地域の皆さんが看護学生や看護職に求めることは何か、大学としてできることは何か、一緒に話し合える機会を持つことが出来れば嬉しいです。



山根 加奈子 YAMANE Kanako

学部 職位 領域 看護学部 助手
基礎看護学

専門分野 基礎看護学

主な研究テーマ 慢性心不全患者の看取りを体験した看護師の感情に関する研究

地域社会のためにできること 臨床における看護師の経験を活かして、地域社会でのボランティア活動などに参加・貢献できるよう努めたいと思います。



竹村 節子 TAKEMURA Setsuko

学部 職位 領域 看護学部 [看護学研究科] 教授
成人看護学 [生活支援看護学]

専門分野 成人看護学

主な研究テーマ 患者の権利に関すること（自己決定）医療におけるアドボカシー（advocacy）、終末期医療について

地域社会のためにできること 研究の相談及びサポートや講義・講演



坂田 直美 SAKATA Naomi

学部 職位 領域 看護学部 [看護学研究科] 教授
成人看護学 [生活支援看護学]

専門分野 成人看護学 老年看護学

主な研究テーマ 慢性病患者のセルフケア支援看護、認知症高齢者と家族の生活支援看護、病院・介護施設・在宅間の連携協働支援看護

地域社会のためにできること 現場の看護職の皆様と一緒に、一般病棟・介護保険施設・在宅における認知症ケアの向上に取り組みたら嬉しいです。是非お気軽にお声をかけて下さい。継続看護や連携協働のシステムづくりに関心のある方もどうぞ。



中川 ひろみ NAKAGAWA Hiromi

学部 職位 領域 看護学部 准教授
成人看護学

専門分野 周術期看護 急性期看護

主な研究テーマ 周術期看護、手術部位感染、ストーマケア、体位変換技術習得に関する研究

地域社会のためにできること 創傷ケア、スキンケア、ストーマケア、失禁ケア、体位変換技術に関する講演、研修



中島 真由美 NAKAJIMA Mayumi

学部 職位 領域 看護学部 講師
成人看護学

専門分野 成人看護学

主な研究テーマ 痛みを持つ方への看護に関する研究

地域社会のためにできること 慢性疼痛を持つ方は多く、そのケアに関する内容であれば、お役に立てるかと思えます。



國松 秀美 KUNIMATSU Hidemi

学部 職位 領域 看護学部 助教
成人看護学

専門分野 急性期看護・災害看護

主な研究テーマ 災害が発生した直後は、自助および共助で連携し被災者のいのちと健康を守る必要があります。避難所看護における看護職の協働について研究致しております。

地域社会のためにできること 地域における減災の為の活動や心肺蘇生法・AEDを一般市民普及する活動をしております。



筒井 裕子 TSUTSUI Sachiko

学部 職位 看護学部 [看護学研究科]
領域 教授 (学長)
老年看護学 [生活支援看護学]

専門分野 老年看護学

主な研究テーマ

- ・高齢者のADL回復への支援
- ・認知機能の低下への不安について
- ・高齢者の糖尿病への支援

地域社会のために できること

地域における保健医療を担う学生が一人でも多く地域に就職し、健康で豊かな生活を送って頂ける事を専門職として、活躍できる様努力しています。



太田 節子 OTA Setsuko

学部 職位 看護学部 [看護学研究科]
領域 教授 (研究科長)
老年看護学 [看護ケア開発]

専門分野 老年看護学、基礎看護学

主な研究テーマ

1. 高齢者の生活機能を高める援助に関する研究
2. 高齢者のターミナルケア
3. 老年看護教育の方法論に関する研究

地域社会のために できること

聖泉大学は稲枝・彦根地区の皆さんとの交流が望まれます。現在は公開講座、大学祭等で保健・福祉・心理学等の交流があります。この繋がりが発展するよう、その成果を意識づけ、継続することが大切と考えます。



安田 千寿 YASUDA Chizu

学部 職位 看護学部 [看護学研究科]
領域 准教授
老年看護学 [生活支援看護学]

専門分野 老年看護学

主な研究テーマ

- ・認知症高齢者の不安軽減に関する研究
- ・高齢者の退院計画、退院指導に関する研究

地域社会のために できること

高齢者ご本人や高齢者をサポートしている方、これから高齢者になられる方などと、生活の中の困りごとが加齢による身体の変化とどう関係しているのかを話し合い、生活の工夫や心の整理をしていけたらと思っています。



森野 美由紀 MORINO Miyuki

学部 職位 看護学部 助教
領域 老年看護学

専門分野 老年看護学

主な研究テーマ

高齢者への身体拘束に関する研究



森本 恵り子 MORIMOTO Eriko

学部 職位 看護学部 助手
領域 老年看護学

専門分野 老年看護学

主な研究テーマ

- ・高齢者の生活不活発病に関すること
- ・高齢者の退院支援に関すること

地域社会のために できること

高齢者が地域でその人らしく暮らせるように一緒に考えていきます。



木村 知子 KIMURA Tomoko

学部 職位 看護学部 [看護学研究科]
領域 教授 (学科長)
母性看護学 [看護管理学]

専門分野 母性看護学 看護管理学

主な研究テーマ

- ・周産期の看護ケアに関すること
- ・民間中小病院の看護管理に関すること
- ・看護職員の人的資源活用に関すること

地域社会のために できること

助産師であることを活かして、妊娠中から出産後までをサポートできればと思います。



戸田 美幸 TODA Miyuki

学部 職位 看護学部 助手
領域 母性看護学

専門分野 母性看護学、助産学

主な研究テーマ

母乳育児における自己効力感を高める助産師の関わりに関すること

地域社会のために できること

青年海外協力隊に参加経験があり、地域にお住まいの在日外国人の妊産褥婦さんへの支援の在り方について、何らかの形で関わっていききたいと考えています。



漆野 裕子 URUSHINO Yuko

学部 職位 看護学部 助手
領域 母性看護学

専門分野 母性看護学、助産学

主な研究テーマ

臨地実習指導者が経験した倫理的葛藤に関する研究

地域社会のために できること

学生と共に母性看護学を学ぶことを通して、地域の妊産褥婦さんや子育て中のご家族の支援について考えています。



中村 美由紀 NAKAMURA Miyuki

学部 職位 看護学部 特任助手
領域 母性看護学

専門分野 母性看護学、助産学

主な研究テーマ 周産期における看護ケアに関すること

地域社会のために
できること

学生と母性看護学を学ぶ中で、地域の妊産褥婦さんや育児中のお母さんが、安心して出産や子育てができる環境づくりをしていきたいと考えています。



間 文彦 HAZAMA Fumihiko

学部 職位 看護学部 [看護学研究科] 教授
領域 精神看護学「精神看護学」

専門分野 急性期精神看護

主な研究テーマ 違法薬物乱用青少年に対する看護の役割に関する研究

地域社会のために
できること

違法薬物乱用防止・アルコール依存症・ギャンブル依存症についての講演会、研修会。依存症に関する治療・地域での活動についてのアドバイスや家族・重要他者に指導・助言。



西垣 里志 NISHIGAKI Satoshi

学部 職位 看護学部 講師
領域 精神看護学

専門分野 精神看護学

主な研究テーマ 精神障害者の家族支援と、精神科訪問看護師のストレスやエンパワメントについて研究しています。

地域社会のために
できること

心の病を抱えている人とともに生活している家族に対しての、ストレス軽減方法やアサーティブなコミュニケーションについての話や相談支援



栗原 はるか KURIHARA Haruka

学部 職位 看護学部 助教
領域 精神看護学

専門分野 精神看護学

主な研究テーマ ・職場での集団心理
・精神科長期入院患者への看護

地域社会のために
できること

精神障害をもつ方やご家族が地域でその人らしく暮らしていけるような支援を一緒に考えていきます。



流郷 千幸 RYUGO Chiyuki

学部 職位 看護学部 [看護学研究科]
領域 教授 (学部長)
小児看護学 [発達支援看護学]

専門分野 小児看護学

主な研究テーマ 医療措置を受ける子どもと親のストレス緩和

地域社会のために
できること

現在は、医療を受ける子どもの権利やストレス緩和を中心に、小児病棟に勤務する看護師、保育士の方々とお子様への支援のあり方に関する検討会を行っています。今後は、地域住民の皆様を対象とした「子どもの発達」「子どもの健康」に関する相談や講演なども行っていきたいと思っています。



平田 美紀 HIRATA Miki

学部 職位 看護学部 講師
領域 小児看護学

専門分野 小児看護学

主な研究テーマ 医療処置を受ける乳幼児と母親への支援モデルに関する研究

地域社会のために
できること

乳幼児の成長・発達の特徴から育児に関する相談、医療処置を受ける子どもと親の気持ちとその支援についてお話することができます。



鈴木 美佐 SUZUKI Misa

学部 職位 看護学部 助教
領域 小児看護学

専門分野 小児看護学

主な研究テーマ 食物アレルギーをもつ小児と家族の支援に関する研究 採血を受ける小児のプレバレーションに関する研究

地域社会のために
できること

食物アレルギーをもつ子どもとその家族への支援について、看護の立場から研究を行っています。日々進歩する食物アレルギーを取り巻く知見と、お母さん方の子育てとを、つなぐお手伝いできれば幸いです。



村井 博子 MURAI Hiroko

学部 職位 看護学部 助手
領域 小児看護学

専門分野 小児看護学

主な研究テーマ SGA (small-for-gestational age) 性低身長症の幼児をもつ母親の育児困難感とソーシャルサポートとの関係

地域社会のために
できること

昔から「子にまざる宝なし」と言われています。子育てにおいて核家族化がすすみ相談することが難しい社会になりつつあります。地域が一体となって子どもたちが心身ともに健やかに育っていくようお手伝いをしていきたいと思っています。



安孫子 尚子 ABIKO Shoko

学部 職位 看護学部 講師
領域 地域看護学
専門分野 地域看護学

主な研究テーマ

地域で行う高齢者の自主グループ活動に関する研究、すこやかな最終段階を迎えるための高齢者の意思決定とソーシャルキャピタルに関する研究

地域社会のために できること

高齢期に起こることと身体の変化、地域で取り組む介護予防、高齢者の自主グループ活動などについての講演、自主グループ活動の継続に関するお手伝いや取り組みへの企画や助言



種本 香 TANEMOTO Kaori

学部 職位 看護学部 講師
領域 地域看護学
専門分野 地域看護学

主な研究テーマ

・地域看護学演習・実習の教授方法に関すること
・保健師のキャリア形成に関すること

地域社会のために できること

健康増進や疾病予防に関する地域活動への協力・支援など



磯邊 厚子 ISOBE Atsuko

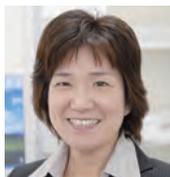
学部 職位 看護学部 [看護学研究科] 准教授
領域 在宅看護学 [看護ケア開発]
専門分野 在宅看護学、国際看護学

主な研究テーマ

・在宅看護、在宅介護に関する研究
・家族看護に関する研究
・国際看護における母子保健

地域社会のために できること

在宅療養における介護者支援、在宅療養者に対する介護の方法や介護保険に関するご相談、糖尿病の食事療法に関するご相談、過疎地域での高齢者の暮らしのご相談



桶河 華代 OKEGAWA Kayo

学部 職位 看護学部 講師
領域 在宅看護学
専門分野 在宅看護学

主な研究テーマ

訪問看護師の経験から在宅看取りに関する研究に取り組んでいます。また、学生が臨地実習で体験する看護技術項目にも関心を持っています。

地域社会のために できること

訪問看護師と教員の経験を活かして新卒訪問看護師や将来、訪問看護師になりたい教育に取り組んでいます。また、地域の障害者の相談やトラブル解決を図るために第3者委員も務めています。



川嶋 元子 KAWASHIMA Motoko

学部 職位 看護学部 助教
領域 在宅看護学
専門分野 在宅看護学

主な研究テーマ

「外来看護における在宅療養支援のシステム構築のための研究」
地域の方々から病院から退院後安心して地域に戻れるように、退院支援に関する研究を行っています。

地域社会のために できること

在宅療養を支えるための介護保険のしくみやサービス利用の流れ、地域にある社会資源について紹介します。また、介護に関するご相談に応じます



加納 亜紀 KANO Aki

学部 職位 看護学部 准教授
領域 養護
専門分野 学校保健、養護教育

主な研究テーマ

子どもの健康や発育発達に関わる研究、養護教諭養成教育に関する研究を行っています。

地域社会のために できること

現在、私は教職課程で養護教諭の養成を行っています。子どもが健やかに育つためにはそこに関わる大人自身が健康でやりがいを持っていることが何より重要です。子どもの育ちに関わる人の力になる支援や活動ができればと思います



研究科

大学院看護学研究科では、看護基礎分野と看護実践分野があります。



城ヶ端 初子 JOUGAHANA Hatsuko

学部 職位 領域 看護学研究科 教授
看護教育学
専門分野 看護教育学・看護継続教育

主な研究テーマ

- ・看護における望ましい「看護理論」教育の在り方に関する研究
- ・看護における倫理的問題と解決に関する研究
- ・看護職者の能力向上の支援に関する研究

**地域社会のために
できること**

- ・臨床における「看護倫理」活用に関する講演会・研修会
- ・看護倫理問題の解決に関するアドバイス
- ・院内教育に関するアドバイス



稲垣 絹代 INAGAKI Kinuyo

学部 職位 領域 看護学研究科 教授
地域・精神保健看護学
専門分野 地域看護学・高齢者看護学

主な研究テーマ

地域で在宅療養されている高齢者に関する研究
貧困や生活困窮者に対する看護援助

**地域社会のために
できること**

講演や健康相談活動

別科

別科助産専攻



井上 佳子 INOUE Keiko

学部 職位 領域 別科助産専攻 講師（別科主任）
助産

専門分野 子どもの虐待予防、子育て不安、
母乳育児支援、妊婦の冷え症、
参加型マタニティクラス

主な研究テーマ

- ・妊婦の冷え症がもたらす影響とその予防について
- ・妊娠期からの子どもの虐待予防にむけての助産師の役割について
- ・多胎育児の支援について

**地域社会のために
できること**

出産や母乳育児、新生児、子育てについて妊婦同志で交流しながら考える参加型マタニティクラス、妊婦の健康づくり（冷えの予防や食事・生活）のためのクラス、孫育てクラスの実施。新生児訪問や母乳育児支援



出石 万希子 DEISHI Makiko

学部 職位 領域 別科助産専攻 講師
助産

専門分野 助産学、母性看護学

主な研究テーマ

医療コミュニケーションに関する研究、助産師の業務内容および業務環境に関する研究、助産師基礎教育に関する研究、産後ケアに関する研究

**地域社会のために
できること**

学童期・思春期・青年期を対象とした性教育、性感染症予防の啓発、妊娠期の母親教室・両親学級、産後の育児相談・リラクゼーション教室（産後のヨガ、マッサージ）、産後 1 年以内の母子を対象としたリズム遊び教室



齋藤 弥生 SAITOU Yayoi

学部 職位 領域 別科助産専攻 助教
助産

専門分野 助産学

主な研究テーマ

乳児の事故防止対策について、助産師にできることを探求しています。

**地域社会のために
できること**

地域社会での助産師の役割を学生とともに学び、助産師学生が施設へ就職した後、切れ目のない妊産婦の支援につなげられるような教育をしていきたいと思っています。

地域連携交流センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、聖泉大学地域連携交流センター（以下、「センター」という。）の管理運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、地域連携及び産学官連携の総合窓口として、地域住民、NPO、行政、医療機関、企業等との連携を深め、本学が有する人的資源及び教育研究成果を広く地域に還元するとともに、地域文化・社会の発展に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは前条の目的を達成するために次に掲げる業務を行う。

- (1) 地域社会の諸活動に対する専門的な支援や地域課題に係る調査研究の調整、受け入れに関すること。
- (2) 地域連携及び産学官連携等に係る受託研究、共同研究に関すること。
- (3) 地域連携及び産学官連携等に係る人的交流、情報収集及び発信に関すること。
- (4) 本学の教員又は組織の地域連携及び地域貢献活動の支援に関すること。
- (5) 公開講座、地域連携講座等の地域住民に対する生涯学習の普及・拡大に関すること。
- (6) 教育・研究成果の発信・還元に関すること。
- (7) 大学・地域コンソーシアム、市民団体、地域団体、行政機関、産業界等と連携したまちづくりに関すること。
- (8) その他前条の目的を達成するために必要な事項

(組織)

第4条 センターは、次の各号の者をもって構成する。

- (1) センター長（学長が任命した者。以下「センター長」という）
 - (2) 各学部から教員2名
 - (3) センター事務室職員 1名
 - (4) 学生地域連携委員 各学部各学年より2名
 - (5) 前4項に定める者の他、センター長が学長の了承を得て、必要と認められた者を加えることができる。
- 2 センター長は、センターを統括し、これを代表する。
 - 3 センター長の任期は2年とする。但し、再任を妨げない。

(委員会)

第5条 センターの運営及び事業に関する具体的な事項を審議するため、センター委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 2 委員会は、次に定める事項を審議する。
- (1) センター業務の企画・運営および評価に関すること。

- (2) センターの予算、決算に関すること。
 - (3) センターの諸規程の変更に関すること。
 - (4) その他センターの運営に関すること。
- 3 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) センター長
 - (2) 各学部から教員2名
 - (3) センター事務室職員
 - (4) その他、センター長が必要と認められた者
- 4 前項第2号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。

(委員長及び会議)

第6条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長は委員会の会務を総理する。
- 4 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。
- 5 委員会は、構成員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決することはできない。
- 6 委員会の事務は、地域連携交流センター事務室が担当する。

(学生地域連携委員会)

第7条 センター長は、必要に応じ、委員会に学生地域連携委員会を置くことができる。

- 2 学生地域連携委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第8条 センターに関する事務は、地域連携交流センター事務室において行う。

(委任)

第9条 この規程に定めるもののほか、センターの運営等に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、教育研究評議会の審議を経て学長が行う。

附則

この規程は、平成25年5月1日から施行する。

附則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

平成29年度事業計画

1) 公開講座

たのしい子育て応援講座

回	日月	時間	講座名	講師名
第1回	5月13日(土)	13:30-15:00	パートナーと一緒に過ごす マタニティライフと出産・育児	看護学部 教授 木村知子
第2回	6月3日(土)	13:30-15:00	子どもの健やかな成長のために -子どもの成長・発達と家族の役割-	看護学部 教授 流郷千幸
第3回	8月26日(土)	13:30-15:00	発達障がい児との関わり ～実践していることのいくつかについて～	人間学部 准教授 押岡大覚 (臨床心理士)

支え合う福祉・高齢者講座

回	日月	時間	講座名	講師名
第1回	9月30日(土)	13:30-15:00	老いてこそ輝くー自分らしく生きる	稲枝地区ボランティア推進協議会 市橋英昭 愛荘町主婦 村西美恵子 彦根市地域包括支援センターゆうじん 高橋孝治 看護学部 老年看護学 太田節子 看護学部 在宅看護学 磯邊厚子
第2回	11月19日(日)	10:00-12:30	支えあい、つながりあう まちづくり	彦根市、彦根市社会福祉協議会、聖泉大学
第3回	12月10日(日)	10:00-16:00	地域づくりから福祉を考える	彦根市、彦根市社会福祉協議会、聖泉大学

受講料無料

2) 高齢者の学び直し講座(健康づくりリーダー養成講座)

健康づくりリーダー養成講座・中級編

トータルコーディネーター 多胡陽介

回	日月	時間	講座名	講師名
第1回	4月15日(土)	10:00-12:00	心と身体のリラクゼーション	看護学部 教授 小山敦代
第2回	5月13日(土)	10:00-12:00	やってみよう! 聖泉オリジナル体操	看護学部 講師 安孫子尚子 人間学部 講師 多胡陽介
第3回	6月3日(土)	10:00-12:00	やってみよう! 丈夫な足腰をつくる簡単エクササイズ	健康運動指導士 中原今日子
第4回	6月24日(土)	10:00-12:00	アクティブシニアに必要な栄養と食事 ～足腰を丈夫にする食事の工夫～	聖泉大学非常勤講師 奥井智美 (管理栄養士)

受講料3,000円(全4回)

健康づくりリーダー養成講座・初級編

トータルコーディネーター 多胡陽介

回	日月	時間	講座名	講師名
第1回	9月30日(土)	10:00-12:00	体力測定と健康相談 ～自分の健康状態を詳しく知ろう～	看護学部 教授 間 文彦 看護学部 講師 中島真由美
第2回	10月28日(土)	10:00-12:00	ノルディック・ウォーキング体験	人間学部 講師 多胡陽介
第3回	11月25日(土)	10:00-12:00	運動と心の健康 ～簡単な音楽体操やレクリエーション活動を通じて～	人間学部 准教授 炭谷将史

受講料1,500円(全3回)



〒521-1123 滋賀県彦根市肥田町 720

TEL 0749-43-3600(代表) FAX 0749-43-5201

HP <http://www.seisen.ac.jp/>

地域連携交流センター

TEL:0749-43-7510

E-mail : renkei@seisen.ac.jp

人間学部

TEL:0749-43-7510

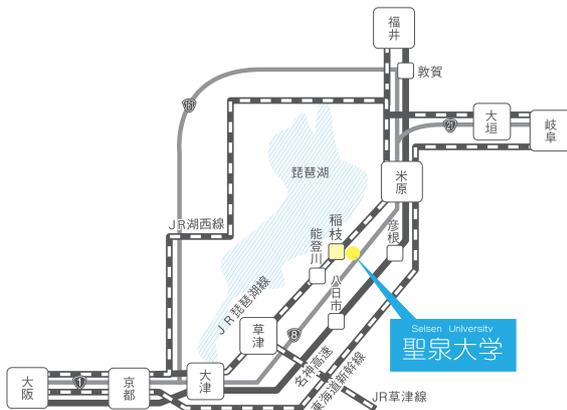
E-mail : shinri@seisen.ac.jp

看護学部

TEL:0749-47-8400

E-mail : kango@seisen.ac.jp

鉄道路線図



〈主要駅から稲枝駅までの所要時間〉

JR 米原駅から約 15 分 / JR 京都駅から約 50 分 / JR 大阪駅から約 72 分
JR 大垣駅から約 65 分 / JR 敦賀駅から約 85 分 / JR 福井駅から約 114 分

大学周辺マップ



〈駅からのルート〉

JR 稲枝駅から徒歩約 13 分 / JR 稲枝駅からシャトルバス約 2 分